

平成21年度 旭中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

- 1 心豊かで思いやりのある生徒（豊かな心）
- 2 自ら学び創造力のある生徒（自主的な学習）
- 3 健康でやる気のある生徒（健康な体と気力）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

人間尊重の精神を基盤に豊かな心と個性を持ち、自主性・創造性を発揮して、たくましく生きる力を培い、広く世界を見つめながら、進んで社会の発展に貢献できる民主的な人間を育成する。

3 学校経営の方針（中期的視点）

- 心身ともに健康な人間育成のため、「知・徳・体」の教育を調和的に展開する。
- 全教職員が教育に携わる者としての自覚をもと、協力して生徒・保護者・地域社会から信頼される教育の推進に努める。
- 多様な資質や生育暦をもつ生徒の存在を認識し、適正な生徒理解や明確な方針により、健全な社会生活を営むことのできる人間育成に努める。

4 今年度の重点目標（短期的視点）

- （学 校 運 営）
旭中は“今年60+1”
柔軟な思考（色々なやり方）で、常により良いものを求め、新しいことにチャレンジ（+1）しよう。
- （児童生徒指導）
規範意識と自尊感情を育てる生徒指導の推進
- （健康・体力）
自己の体力向上を目指し、主体的に運動に取り組む生徒の育成
- （学 習 指 導）
基礎基本的な内容の定着を図り、学習意欲の向上を促す指導の充実

5 自己評価（Aは共通評価指標、Bは学校独自評価指標）

（評価指標の〔全〕は、全体アンケート実施）

（「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入）

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評価
教育全体の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】肯定的評価80%	学校行事で生徒が意欲的・主体的に活動できる場と時間を計画的に確保する。	B	【達成状況】 ・明るくいいきとした雰囲気がある、教職員は熱心に指導している、教職員は誠実であるは教職員・保護者・地域住民・生徒で肯定的評価が80%を超えている。 ・授業と生活のきまりやマナーを守るでは、地域住民以外は68%前後である。 ・きめ細かな指導では、57～97%とばらつきがある。 ・適切に教育課程を実施しているは、教職員・保護者・生徒で80%を越えた肯定的評価をしている。 【次年度の方針】 ・教育全体の状況は、おおむね達成できているが、次年度においても教職員・保護者・地域住民が連携して、定着を図っていく必要がある。 ・授業と生活のきまりやマナーを守るは、生徒自身が課題と自覚しているので、生徒会活動を活発にして、生徒自ら改善していく
	A2 教職員は、組織の一員として誠実で熱心に教育に当たっている。〔全〕 【数値指標】肯定的評価80%	生徒理解に努め、教師と生徒の人間関係を大切にしながら教育活動にあたる。	B	
	A3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。〔全〕 【数値指標】肯定的評価80%	5分前行動の徹底を図り、安全とゆとりのある行動が取れるようにさせる。	A	
	A4 分かる授業やきめ細かな指導で学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】肯定的評価80%	① 授業の初めに明確な課題を提示すると共に、生徒の理解状況を確認しながら、分かる授業を目指す。 ② シラバスを活用することで、1年間の授業の見通しを取り組ませる。	A	

	A5 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている。〔全〕 【数値指標】肯定的評価80%	① 生徒が生き生きと生活できるようにするため、各行事のバランスを図る。 ② 授業時間を確保するため授業交換などを積極的に行い、出張などでの自習を減らす。	B	ように支援する必要がある。 ・わかりやすい授業、きめ細かな指導については、新学習指導要領を反映した教材研究を進めると共に、生徒や保護者のニーズを把握する必要がある。
学校運営の状況	A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、「地域の学校づくり」が進められている。〔全〕 【数値指標】肯定的評価80%	家庭訪問や学校公開日の設定、各種日より、HPなどを利用して学校の情報を発信・提供する。	B	【達成状況】 ・学校便りや学校公開、HPで情報を発信しているが90%を超えている。 ・学校・家庭・地域・企業等の連携は教職員・保護者・地域住民は80%を超えているが、生徒は65%の肯定的回答であった。 ・学習にふさわしい環境は75%を全てで越えていた。 ・教職員の指導力の向上と指導の工夫と改善には教職員は86%が肯定的回答であったが、保護者においては64%であった。
	A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている。〔全〕 【数値指標】肯定的評価80%	学校・家庭・地域の連携を図るため、三地区における地区懇談会を実施し、積極的な意見交換を行う。	B	【次年度の方針】 ・学校からの情報発信が軌道に乗ってきているので、次年度においては、内容の充実を図り、工夫している点なども理解してもらうよう改善する。 ・教室や廊下の掲示物の充実や学校内各所の清掃の仕方を話し合わせるなど、生徒自らが環境整備に取り組む姿勢を培っていく必要がある。 ・教師が互いの授業を参観しあって指導力の向上に努める。
	A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。〔全〕 【数値指標】肯定的評価80%	① 教室や廊下の掲示物を計画的に整備すると共に、できるだけ多くの生徒の作品を掲示する。 ② 学習にふさわしい環境を作るため、清掃活動の充実を図る。	B	
	A9 学校全体で、教職員一人一人の指導力向上に努めている。〔全〕 【数値指標】肯定的評価80%	教科ごとに教材研究会を開いて授業の工夫を図ると共に、授業を参観しあって指導力の向上に努める。	B	
教育活動の状況	生徒 A10 自ら進んであいさつし、気持ちの良い言葉づかいをしている。〔全〕 【数値指標】肯定的評価80%	生徒会、教職員、保護者が協力して、朝のあいさつ運動を実施する。	A	【達成状況】 ・あいさつは全てで71%を超えていた。 ・きちんとした言葉使いや返事は教職員で低い肯定的評価であった。 【次年度の方針】 ・生徒会やPTAと協力して朝のあいさつ運動ができたので、更に定着を図る。 ・時と場と相手に応じた正しい言葉遣いを身に付けさせるために学校・家庭・地域が連携して取り組む。
	健康・体力 A11 毎日朝ごはんを食べ、栄養のバランスを考えた食生活をしている。〔全〕 【数値指標】肯定的評価80%	① 「給食だより」や保健・学級活動を通して、食の大切さを自覚させる。 ② 昼休みや部活動などで積極的に運動させる。	B	【達成状況】 ・給食を好き嫌いなく食べるは75%を超えていた。 ・休み時間や放課後に運動しているは高い肯定的回答であった。 ・部活動に意欲的に参加しているは全てで80%を超えていた。
	B1 心身の健康を図るため、積極的に部活動に参加している。〔全〕 【数値指標】肯定的評価80%	① 各部の活動内容や取り組み状況を生徒会などで紹介する。 ② 魅力的な部活動にすることによって、加入率を高める。	B	【次年度の方針】 ・部活動に更に意欲的に参加できるよう指導体制を整え、各部の目標やきまりを明確にし、主体的に取り組ませる。

	A12 授業に意欲的に参加し、基本的な学習態度・技能が身に付いている。〔全〕 【数値指標】 肯定的評価 80%	「学習の約束」を身に付けて、意欲的に授業に取り組ませる。	A 【達成状況】 ・積極的な学習では全てで 50%まで至っていないかった。 ・話を良く聞き、落ちついた学習は 61%～75%であった。 【次年度の方針】 ・進んで挙手し、大きな声で発表できるように「学習の約束」の見直しと徹底を図る。 ・生徒が自ら考え、意見を発表したり、文章にまとめたりできるような授業づくりに努める。
本校の特色・課題等	B2 美しく豊かな心を育成する。 【数値指標】 肯定的評価 80%	毎朝の読書の時間をとおして、読書の楽しさを味わわせると共に、物事を感じとる心を育てる。	B 【達成状況】 ・朝の読書は教職員 90%、生徒 75%であるのに、保護者・地域住民は低い肯定的回答であった。 【次年度の方針】 ・朝の読書の時間をきっかけに、読書に親しむ習慣を身につけさせる。 ・読んだ本の内容を互いに紹介しあうなど、読書の発展的な活動を取り入れる。 ・「立春」や「大寒」など、暦を教えることによって季節を感じる心を育てる。

〔総合的な評価〕

- ・教職員・保護者・地域住民・生徒の調査項目において、全ての肯定的回答が昨年度より増えている。
- ・学校全体に活気があり、明るくいいききとしていると見る割合が多かった。生徒たちがあいさつ・運動・部活動を積極的に行っている表れと見ることができる。
- ・目標が達成された項目が多くなったが、それに至るまでの過程において、保護者や地域住民への周知が不十分であったため、変容を理解してもらうことが難しかった。
- ・あいさつ・返事などは向上したが、ＴＰＯに応じた言葉遣いやマナーについては教師・生徒において評価が低かった。
- ・教職員の姿勢やわかりやすい授業については、肯定的回答が教職員と生徒、保護者に大きく開きが見られた。
- ・授業で進んで挙手し、大きな声で発表するなど、授業に対する積極性に関する評価が低かった。

6 学校関係者評価

- ・肯定的回答の数字が昨年に比べ多くの項目で高くなっている。また、市と比較することで実態が見えてきている。しかし、数字を比較することだけにとらわれず、より高い目標を求めることが大切である。
- ・保護者の回収率が89%と増えた。更に、学校への関心を高めていく努力が求められる。また、「わからない」と答えたのに対して、どのようにしてわかってもらうのかを工夫することが必要である。
- ・教職員の取り組みは授業参観だけでは見えず、数字だけで比べられない。また、授業以外での教職員の取り組みも評価できるようにすべきではないか。特に、部活動を熱心に取り組んでいる先生の評価がない。
- ・学校・保護者・地域の役割分担が必要である。連携と言いながら、どこが学校、どこが家庭、どこが地域なのかの割り振りが必要である。学校が求めるものを地域・保護者に発信し、互いに補い合うことが必要である。
- ・あいさつ運動などの取り組みの成果が、学校内外でもあいさつする生徒が増えていることから見て取れる。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

- ・肯定的回答は昨年に比べ高くなった。今後もより高い目標を目指していくことが大切である。
- ・保護者の学校への関心は増えたが、学校の様子がわからない方への情報発信の方法を更に工夫する必要がある。
- ・学校だよりなどを利用し、家庭や地域に言葉遣いやマナーに関する啓発を積極的に行う必要である。
- ・あいさつ運動の効果が学校教育全般に良い影響を与え始めている。更に、地区内の小中学校が同一日に実施することで小中一貫教育の一役を担うことができる。
- ・「授業において積極性が足りない、発言の声が小さい」については、「授業の約束」をもとに生徒が積極的に発言できる授業作りに努める。